

報告番号 1号
令和6年12月10日

根室市議会議長 様

政務活動報告書

議員名 西田浩一

区分	<input type="checkbox"/> 調査研究 <input type="checkbox"/> 研修 <input type="checkbox"/> 広報 <input type="checkbox"/> 広聴 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input checked="" type="checkbox"/> 北方領土対策活動 <input type="checkbox"/> 会議
活動テーマ・目的等	北方領土返還要求中央アピール行動
期間	令和6年11月30日(土)～12月2日(月)
参加者氏名	西田浩一
対応者	北方領土隣接地域振興対策根室管内市町連絡協議会(会長 石垣 雅敏根室市長) 元島民や全国都道府県民会議など返還運動関係者ら総勢500人が参加
場所	日比谷公園音楽堂から鍛冶橋交差点付近1.6キロ区間 新宿駅西口地下広場イベントコーナー
行程	11月30日(土)根室市→中標津空港→羽田空港→麴町(ホテル・ルポール麴町) 12月1日(日)アピール行進、北方領土パネル展・根室管内物産展(新宿駅西口イベント広場) 12月2日(月)麴町(ホテル・ルポール麴町)→羽田空港→中標津空港→根室市
内容・成果	<p>昨年に引き続き、北方領土返還要求中央アピール行動に参加した。アピール行進には、伊東良孝北方担当大臣や鳩山二郎内閣府副大臣、英利アルフィヤ外務大臣政務官、今井絵理子内閣府大臣政務官はじめ地元の鈴木貴子、篠田奈保子両衆議、鈴木宗男参議、根室管内の町長、町議会議長、姉妹都市の黒部市から武隈市長や市議団のほか、元島民や根室管内から約70人、さらに東京根室会の関係者や全国の北方領土返還要求都道府県民会議など総勢500人が参加。出発式で、北隣協会長の石垣市長が「不法に占拠されてから79年が経過した。事態が長期化する中で北方領土問題が置き去りにされ、国民の関心が薄れることを懸念している。先達の思いを高く掲げ、熱い思いを発信しよう」と力強く訴えた。伊東担当大臣、鳩山内閣府副大臣らが参加者を激励したあと、元島民を代表して国後島出身の古林貞夫さん(86歳)が「望郷の念かなわず他界した多くの墓前に吉報を届けるその日まで、無念の思いを希望に変え、早期解決に向け力強く行進する」と決意を表明。このあと、羅臼町の湊屋稔町長の号令の下、日比谷公園音楽堂前を出発。ゴールの鍛冶橋交差点までの1.6キロを行進した。</p> <p>47都道府県の総意を示す都道府県旗を掲げながら「北方領土を返せ!」「北方領土交渉を再開しよう!」「北方墓参を早期に再開しよう!」など声を張り上げ、早期</p>

返還の願いを訴えた。また、新宿駅西口地下広場で開かれた「北方領土パネル展・根室管内物産展」を視察し、出店者やパネル展で領土問題を啓発するスタッフらを激励した。

石垣市長があいさつで述べた通り、ロシアのウクライナ侵攻で平和条約交渉が中断するなか、領土問題が置き去りにされ、国民の関心が薄まることが懸念される。元島民や返還運動関係者の思いを全国に発信することができて良かったと思う。この啓発活動は、戦後間もない昭和20年12月1日に当時の安藤石典・根室町長が、連合国軍総司令部（GHQ）のマッカーサー元帥に「北方領土を米軍の占領下に置いてほしい」との陳情書を提出したことにちなみ開催。今回19回目を数える。平均年齢89歳を迎える元島民にとって1.6キロの道のりは負担も大きいのではないかと危惧している。沿道の人たちの反応も高いとはいえず、スタート地点の日比谷公会堂の取り壊しのため開催場所の変更など課題を残している。「継続は力なり」であり、全国に向けて北方領土問題を発信する中央アピール行動は堅持しつつ、開催手法などを見直す時期に来ているのではないか。



今回の視察で姉妹都市である黒部市の市議や返還運動関係者、さらに元島民、後継者らと交流し、意見を伺った。平和条約交渉の中断で、ビザなし交流など北方四島との交流が途絶え、北方墓参についても見通しがついていない。すでに何度も指摘されていることではあるが、元島民

の高齢化を鑑み、人道的見地から北方墓参の早期再開を強く望むとともに、領土交渉の再開が見通せない現状、今できる残地財産の補償や隣接地域の振興など内政措置問題に対する取り組みを着実に進め、高齢化する元島民から返還運動を継承する後継者やその運動をけん引していくリーダーとなる人材の育成が急務と感じた。